

◆ はじめに ◆

フェリス女学院大学附属図書館 館長 藤本朝巳

現代の大学図書館は、通常の図書館業務以外のさまざまな機能も果たすことが期待されています。フェリスの図書館も期待に応えるべく取り組んでおり、2014年度末に設備を一新したAVコーナーは学生に頻繁に利用されています。また、ラーニングコモンズの機能を持つグループ学習室も授業、課外活動などによく活用されており、図書館は多目的学習の場へと変わりつつあります。朝日新聞出版発行の『大学ランキング』でも図書館は毎年高い評価を受けています。一方で昨年11月の大学祭では、学生はもとより近隣の方にも多数ご来場いただき、図書館の入館者は2日間で1,500人を超えました。また夏の女子高校生への図書館開放には述べ108名の利用があり、地域貢献の役割も果たしています。

図書館は、2002年度から「読書運動プロジェクト（読プロ）」に活発に取り組み、毎年、豊かな実りを結んでいます。この活動では、学生たちが主体的にテーマを決め、それに沿って数回の読書会を開くだけでなく、関連図書資料の展示、文学ゆかりの地訪問、選書ツアーなど、ユニークな企画を立てて実践しています。

今年の読プロのテーマは「平和を考える」でした。前期読書運動科目「今年の一冊」では図書館長が中心となって、6名の教員と共に、原発被災地の環境問題（全村避難の飯館村の環境再生の取り組みから）から国際的な人権問題（国境を越えて移動する人々の権利、国際人権と子どもの権利問題の現実）にいたるまで、さまざまな視点で「平和」と「環境」について学びました。さらに関連資料（平和・環境を考える作品・ドラマなど）の展示活動も重ねました。

また、毎年行っている朗読、再開した「読み聞かせ」では、近隣の小学校など地域への貢献も積極的に実施いたしました。一方、後期読書運動科目「読書とメディア」では、今年も森亨先生のご指導のもと、「編集視点から俯瞰し、理解するメディアとコンテンツ」と題して、メディアの総合的な知識とリテラシーを実践ベースで学びました。学生にとって必須の文書作成とコミュニケーションを多面的に考察する力、メディアリテラシーなどを身に付ける良い機会となりました。

読プロは上記以外にも、神奈川近代文学館での朗読発表会、また大学祭では朗読会、しおりの製作体験（184名参加）など多彩な活動を行いました。また、今年の嬉しい成果は創作コンクール（小説・詩・戯曲）に19作もの優秀な作品の応募があり、小説部門では2作品が第1席に輝き、そのうちの1本がめでたく全学的なコンテストであるフェリス文芸大賞を受賞いたしました。

一方で図書館には学修支援のさらなる充実など大きな課題があり、社会の変化に対応できるよう努力しております。また、増え続ける図書の設置空間も確保しなければなりません。皆様のさらなるご理解、ご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。